

2.
甘芳賀事務官報告書

348

REEL No. A-0270

0270

アジア歴史資料センター

次方
人事課長
會計課長
電信課長
横山善吉
佐藤源助

日本軍の北部
佛印進駐関係

此訓令ハ上白
手紙ハ好委員
トシカモレヨリモ
即チ在在ニ於テ
刑友ヲモ電シ
アリ
本即ニ私ニ
正式ノ引揚
命令ヲ出シ
先チ訓令
月ニ初先
形式トス

要旨
歐亞局長
歐亞局長
歐亞局長
三宅事務官殿
係極付
昭和十五年九月二十六日
海口ニテ
芳賀事務官

引揚ケノ経緯ニ関シテハ大体電報ニテ報告シテ置イタ
テスガ尙詳細ノ事情ヲ説明シ度イト思ヒマスカラ私信
申シ上げマス。
本月十七日頃ニ至リ愈々軍事交渉が行詰ノノ氣配ヲ

示シテ来マシタノテ居留民ニ對シ其ノ旨ヲ知ラセルト共ニ十八日申
ニハドウシテ之ヲ引揚ケノ内命ヲ發スル必要ガアルト思ヒ本省ニモ右
ヲ電報シテ次第ヲス。電報ヲ打ツテカラ一晝夜半待ケマシタ
ガ本省カラハ何トモ言ワテ来ズ予定ノ二十日出帆ノ為ニハ色々
手續ノ関係上遅クトモ十八日夕刻ニハ何等カノ指令ヲ為サネバ
ナラス依テ十八日午後五時頃在留民全部ニ對シ引揚ケ命令ヲ
出シテシマヒマシタ。本省ノ訓令ヲ受取ツタハ十九日午後ニオフ
テカラテ夫レハ引揚ケノ必要ハ無イト思フカ萬一引揚ケノ場
合ニモ賠償ヲ避クル爲メ命令トセズ強カナル勸告ノ形式ニ依レトアリ
マシタカ強カナル勸告ト言フテ夫レハ全ク詭辯ニ過ヤス現地ニ
居ル者々トシテ假令訓令ヲ事前ニ受取ツタトシテモソノ十馬鹿
チ勸告ガ出来ルモノデハアリマセン。或ハ吾々ノ本省ニ對スル現地
事情ノ報告ガ不充分デアツタト言ハレルカモ知レマセンガ概畧ハ

總領事
在海口日本總領事館
海軍部
海軍部

在為民引揚ノ
 以ナリ
 大ナリ
 小ナリ
 引揚
 スヘキ
 而シテ
 ナリ

其ノ都度電報ニテ居リ又大本營トノ聯絡サハ緊密デアツタ
 ナラバ當方ノ情勢ヲ判断スル必要ノ材料ガ有ツタ管テス。兎ニ角
 先ノ時間的余裕猶ガ有テ置イテ請訓シタモ不拘違クナフ
 テ同訓ヲ貰フ様ヲ現地ニ居ルモノトシテハ独斷專行ノ誹リ
 ラ受ケテスドク、事ヲ進メテ行カケレバナリマセン。
 去ルニ日ノ晩形勢險悪トイフテ軍側ヨリ引揚ガ要求ノイツタ時
 ハ十二時止クテ佛印ニ於テハ午後十時ヨリ午前六時迄ハ絶對ニ
 電信ヲ取扱ハズソコデ其ノ晩ハ番居留民ニ對スル電報ヲ用意
 シ發電ハ三日ノ朝シタ次第デ其ノ時ハ軍ニ地方在住者ニ對シ
 事情切迫セル故至急總領事館ニ召集サレ度旨傳ヘマシタ。
 河内市内在住者ニ對スル措置トシテハ代表者ヲ招致シ總領事
 ヲリ事情ヲ説明シテ世間ニ海防ニ於テハ海防監視所長小田切
 少佐ヨリ同様ノ措置ヲ採ツテ貰フ様依頼シマシタ。序テスガ

在海口日本總領事館

小田切少佐及同監視所ノ柴崎屬ハ終始海防方面ノ邦人
 ヲ指揮シテ與レマシテ本末ナラバ河内總領事館ヨリ誰カ出張
 シテ居テケレバナラナカタノ一切代ワテヤツテ與レマシタノ人
 デモ余計ニ歎シイ時タツノデ隨分助カリマシタ。一寸傍道ニ
 外レマシタカ第一同ノ時ハ余猶ガサレマシマセンデシタノデ
 (三日ノ朝通知シ四日ノ夕刻迄ニ總領事館ニ出頭ヲ命ジマシタ
 ノテ)兎ニ角地方在住者ヲ呼ビ出ストトガ急務デアツタノデ聯絡
 ノ方法ニ關シテ非常ニ苦心シマシタ。中ニ三日迄タケレバ電報
 ノ届カヌ山ノ中ニ居ルト言フ様ナ人モアツテ一人デモ在留邦人ヲ
 殘シテハナラナイト思ヒ心配シマシタガ古クカラ居ル館員ト在住者
 同志ノ互助ニ依ツテ四日夕刻迄ハ一人モ漏レズ河内ニヤツテ来タ
 時ニハ全クホットシマシタ。佛印殊ニ河内總領事館管轄地
 域ニ居住スル人ハ僅カノ例外ヲ除クテ資本ノ背景ヲ持タズ

在海口日本總領事館

本當ニ裸一冊見テ傷イテ居ル感心ナ人達デ從テ財政的ニ忠
マレズ又取ルモノモ取リ敷ク河内ニ馳ケ付ケテ来タノデ五日ノ晝
飯ニ全部ヲ招待シテ協定成立ヲ告ゲ今迄ハ色々圧迫ヲ受ケテ
来タガ是カラハ安ハレテ生業ニ從事出来ルヲセツト詭ニマシタラ
中ニハ感激ノ余リ涙ヲ流シテ喜ニテ居タモノモアツタ位デス。
貧乏ナ人達ヲスカラ歸リニ足代ノ一部トシテ總領事ヨリ金一
宛ヲ渡シテ置キマシタ。コレハ機密金ヨリ支出シマシタガ會計課
ヨリ何等カ阻合セノアツタ場合ニ適當ニ申説明願ヒマス。
協定成立シテ元暫ク振リノお京カカラ河内見物ヲシタイト言
テノ人達ハ河内ニ残リ居マシタ也又々五日ノ越境事件ノ結
果交渉停頓シタノデ歸定ス向ニ何時ニテモ聯絡ヲ取リ
得ル方法ヲ請ヒテ置キ事態ノ推移ヲ見守ルコトトシマシタ。
叔前ニ申シタ通り十八日夕刻軍側ト協議ノ上同訓ヲ

在海口日本總領事館

待タズ引揚ケ命令ヲ發シコレニ從ツテ右在留民ハ引揚ケ
実行ヲ持ツ丈ノ態勢ヲ探リ折カラ海防入港中ノ八海丸(北
海道ノ板屋汽船所有ニ井備船)ハ玉蜀黍積込マテ中止シ出港
許可證(海防ハ軍港ノ關係上出入港手續複雑ナル由ヲ準備ス
ルコトトナリマシタ。一方西貢ノ方デモ大阪商船アリソナ丸モ同ジク
玉蜀黍積込マテ中止シマシタ。十八日夕刻ニ訓令ヲ待タズ
命令ヲ發シタハ是等兩船ノ出港準備ヲ爲ス必要上ヤソク
一杯迄本省カラノ指示ノ到来ヲ待ツテ而モ夫レが到着シテカワ
カラデス。又訓令ヲ受ケ取ツテ居ツタトシテモ勸告トセズ命令ト
シタデアラウト前ニ述ベタノハ主トシテコノ船ノ關係カラテソレカラ
又ニ十年ニテ年ト腕一本ヲ奮闘シテ居ル人達ヲ安全全ナ地ニ
運ブ爲ニ單ナル勸告ヲ殆ド實効カナカッタカラト言フ事
ヲコトヤ了解頂キタイト思ヒマス。尤々居留民ノ引揚ケ

在海口日本總領事館

ノミニ際ニテハ最後ノ瞬間ニ自由裁量權ヲ與ヘラレマシタカラノ事
以上クドク申上ケル要モナイデセウ。(ソノ電報ハ二十一日午後九時
ニ海軍經由第一電ニ對スル同趣旨同電ハ二十一日未明海防ニ
到着シタ時ニ見マシタ)

十八日朝總領事ニ隨行シトク、總督ニ面會事態ニ鑑ミ
居留民保護ノ見地ヨリ一時居留民ヲ佛印領外ニ移シ度キ事
ニ于日朝海防ニ特別列車ヲ任立テル様指令アリタリ日甲入
レルト共ニ引揚民ノ留井~~井~~名簿ヲ提出シ留守中ノ
財産保管方要請シマシタ処日總督ハ可ナリシコトクヲ受ケテ模
様ヲ會見中殆ド眼ヲ床ニ向ケテ儘日佛兩國ハ友好關係
ヲ維持シ居レルコト、協定交渉スルガイスニ進ミ居リ如何ニ
考フルニ居留民揚ガノ理由ヲ解シ得ザルコトヲクドク述ベ
立テマシタガ總領事ヨリ何モ日本ノ事ヲ起ス意思ハナク引揚

在海口日本總領事館

ケハ全ク予防措置 (Mesure de précaution) ニ過キヌイカカラト説
明シマシタガ相變ラズ *Je ne comprends pas* ヲ傳リ返ス丈デコケラエ
面倒臭クナツタノヲ議決無用ト思ヒ汽車ノコトヲ頼リカテ頼
テ歸ツテ来シタ。翌十九日午前富永少將ノ訪問後列車
ノコトヲ念ヲ押シニ因ビ訪問シマシタガ總督ハ前日ノ面會後先
方ノ依頼ニ依リ^{文書}ヲ讀ンカモ理由ハ依然不可解外ガ處ニ角
雲南鐵道會社ニ命ジテ置イタカラ會社ノ事務員ガ領事館
ニ去頭スルト思フト答ヘマシタ。富永少將ガ仰カレレハ爲ニ面會
ヲ求メタ時ニ總督及總督付 (Officier d'ordonnance) ハ狼狽ノ色
ヲ示シタソウデスが吾々が會ワタ付ハハスツカリ落着イテ平生ノ通
微笑サヘ浮マテ迎ヘ入レマシタ。

其ノ間ニ居留民ノ代表者ヲ召集メテ引揚ガノ實施方法ニ付イテ
打合セテ遂ゲテ居留民タガコレハ館員中古顔ノ連中ヲ動員

在海口日本總領事館

レテ細クテハ殆ド其人達ニ委セ仰リテシタが大変良クマツテ
クレマシタ。居留民モ今迄ノ地盤ヲ棄テテ立タ云ルトニ對シ最
初ハ悲痛ノ氣持ヲ居タモノが多ク夕様テスガ次第ニ事情
が解ルツレテ引揚ガカ一時的アリ自公達ノ短期間ノ犧牲
ニ依リテ將來ハ非常ニ日本ノ發展上有利トナルト云フテ
良ク理解シテ呉レテ彼モト不平ヲ言フモノが減少シ早口吾々ガ期
待シテ居タ以上ニ總領事館ノ命令ニ素直ニ服従シ各班長ハ
九班ニ分ケ各班長ニ責任ヲ付トセル。ソステハトシマシタ。之積極的
ニ協力シ吾々トシテハ非常ニ愉快ニ行動スルコトが出来マシタ。
二十日午前七時河内驛頭ニテ一同國歌ヲ唱ヒ總領事ノ發聲
ヲ天白王陛下萬歳ヲ三唱シテ上嚴肅ノ氣氛ノ中ニ汽車ハ海
防ヘ向ケ發車シマシタ驛ノプラットホームニハ多數ノ軍南人ガ
押シ寄セテ其ノ光景ヲ見テ居リマシタシ其ノ群集ノ中ニ特高

在海口日本總領事館

警察ヲ不測シキ者が混ソテ眼ヲ共ラセテ居マシタ。
監視団中海防ヲ除ク監視所ノ所屬員ハ廣東軍ニ編入サ
レテ十九日朝軍用機ニ台ニ分乗シ廣東ニ飛ビ本島ノ主腦部
ヲ除ク人達ハ二十日ノ特別列車ニ乗リ込マシタ。本島幹部
ハ二十日午前中ニ自動車ニテ海防ニ向フコトニテ居タ処ハラニ
例ヨリ交渉繼續ヲ希望シタ爲其ノ儘河内ヲ交渉ヲ續ケテ
後七時頃協定調印ヲ先方ガ約カニモリマシタ。居留民ノ引揚ガ
ニ關シテハ軍側ノ希望ノミナラス平和進駐ノ場合モ絶對必要
ト確信シテ之ヲ準備シテ居タ訣テスガ總領事館ノ進退
ニ付テハ軍側ハ極力引揚ガケテ西モ求シマシタガコレハ本省ノ訓令
モアリ又多少ノ戰鬥一行ハレニ場合ニ日佛間外交關係ガ友好
的ニ存在スル以上假令西東機密ガ河内ヲ立ケ去ラウトモ吾々ハ殘
留スベキ日總領事ニ説キ軍ノ要求ヲ拒絶シテ來タ次第

在海口日本總領事館

リス。十九日夜西系少將及富永少將ニ別レテ挨拶ニ行キマ
 シタ。又富永少將ハ總領事館ヲ引揚ケテ西若シマ
 シタガ留方ノ意向ニ變化ナシヲ見テ説得ヲ断念シタ。様
 自公ハ貴方ガタノ進退ニ干涉スル權利ハナイカガ危険カアソテ
 又留ルト云フナラ任方カナイト答ヘマシタ。西系少將ハ笑ヒテカラ
 免言。今日(十九日)明日朝才別レニ行クト司令官ニ言ワシメ
 別レテ紙ヲ出シテマツタカラ免言。尚明朝會見後海防ニ行
 クガ駈逐艦ニ乗ソシ儘ソソトシテ居テ政府カラ訓令ガ来タカラ
 ト言フテ又河内ニ歸ワテ来マスヨニ二十日ニソワテモ二十三日ニソワテモ
 ケハシマセニソト言ヒマシタ。西系少將ハ訓令ニ紳士的リスガ大体
 軍例ガ引揚ケテセヌ左レトシテ利用シヨウト言フ。作番房
 例ナシ持テ強ク殊一昨日ノ如クハ全ク芝居テアワタリテ吾々
 トシテ軍ノ術策ニ利用カレルトテ充分警戒シテ居ワタ様

在海口日本總領事館

ナ誤リス。テスカラ第一回一時ハ監視固ハ監視所ヲ引揚ケル
 ノミナラズ四日朝ニ非常ニ大加緊ヲ引越シテヤリマシタガ
 領事館ハ居留民ニ對シ唯何可シカ出テ發シ得ル様準備
 ヲサセテ四日夕テ自發的ニシテ向テ除イテハ海防迄荷物
 ヲ送ワタモハ殆ドナカタン領事館ニ全無荷物ヲ送リ出サテ
 カツノテ相當感觸ヲ言ヒタ様ニ見受ケラレマシタ。尤々領事
 館員ノ荷物丈ハ假令^ツ好ス左トハ言ヘ監視固ト歩調ヲ
 合セ度イト思ワテ午前十時ニ送リ出スコトニソワテ居マシタ。ト
 一手遣ヒ(トフツクハ軍用ニ徵發サレル爲市外ニあるトテ禁止サレテ
 居タノチカラ^レジノ方テ無イトカカントカ言ヒ出シタノテ普通ノ自
 動車ヲ送交シタリシテ居タノチ(トフツクハ)時頃ニテリ其ノ頃ハ同日夕刻ニ
 調印同遣ヒテシト見込^ミガ完全ニ付イタノテ取止メタノデソレ丈
 協調シテヤツタノチカラ別ニ文句ヲ言ハレル所合ヒテナイト

在海口日本總領事館

思フ。居留民ノ引揚ケル軍トシテハ沿岸口セエス合了レトシテノ方
ニ重テヲ四重イテオキカモ知シテイガ吾々トシテハ又吾々ノ立場カラ
判断シテ決定シテ決テ軍ノ互尾馬ニ乘リテ決テハイカ
安心ニテ欲シイト思ヒマス。ソウ言ヒテ軍ノ気持カラスレハ
居留民ノ引揚ケルノミナラズ總領事ノ引揚ケルコトナケレバ不
全アアソク軍ガ勸誘ニ吾々ニ引揚ケルヲ勸告シテハ沿岸口
アソクセウ。

富永少将ハ二十日朝廣東軍ト聯絡ノ為飛行機ヲ出タシテ
西条少将等一行ハ河内ニ留リテ聯絡將校ヲ介シテ司令部ト接
触ヲ絶タズ時刻ノ會見ヲ協定調印シ得ル迄ニ漕舟着ク
總領事及小生ハ安藤不破兩書記生ヲ河内ニ殘シ海防ノ乘船
ヲ見届ケヨウト思ヒ河内駛リ直接海防ニ赴キ列車ヨリ先廻
リテ海防監視所小汽船及駆逐艦ト聯絡シトワテ居マシタ。

在海口日本總領事館

居留民ハ全壽子前中ニハ海丸及中用船ヲラハルニ乗込マシ
タガ雜用ガ色々アワテタガ岸トナリヤ田切少佐ト吾々ガカテ此
食事ニテ居ルト海防ノ警備回者長ト監視所ノ聯絡將校ガ
ヤツテ来テ嬉シソウナリ今晩中ニ協定調印ノ見込ヒ
河内カラ電話ガアタタ旨通ルニ乘マシタ。食事ヲ済マセテハ
九時ニテワテイマシタ總領事ハセウ安心ガカラ疲レテモイル
船ニ泊ルコト言フノデヤ生ノミ警備回者長ノ如クハ護衛
ヲワケレテ河内ニ自動車ヲ走ラセマシタ。ソウイタハ十一時
早速本部へ行ッテ様子ヲ知ラウトシタ処西条少将以下黙
リコクテ考ヘニ耽ワテオタノテ期切ニ及スノデ尋ネタ処非心
觀的ナ説明ガアリマシタ。教カスルト司令部カラ派遣サレテ
度心聯絡將校ガ歸ッテ来テ西条少将ガ調印前不明瞭
ナ点ヲ明確ニシ度イト思フテ同將校ニ持タセテヤツタ書面

在海口日本總領事館

記載ノ三文中「ド」ノ進駐ノ時期ヲ廣東軍カ決定スルト云
 一語ハブラニスノ名譽ニ賭ケテ如何ニモ受謀ホリ能ハルニ由司
 實傳達方命令サレテト自己ノ立場ノ苦ニイテヲ備述シ
 西系ヲ將ニ對シテ西系方種々懇請シタガセカラハ「町」ニ特ソ
 相當イテ「ニ」中ヲ同將「ノ」ノ「ノ」ト備述シテ上思
 テニ階ノ寝室ニ昇リテ中ソテ「マ」ニマシタ。西系ヲ將ハ「ト」
 「ト」海防ト同時ニ進駐ニ得ルニ「ト」思ヒ「ン」ニテ「ク」ハ「調」印「ハ」キ
 「ト」ト「解」フ先方カ「ハ」ル「ハ」ペ「ン」ニカケテ「ク」印「ハ」キヲ「受」ケ「ク」
 「ク」ソレ「ク」憤慨シ「ク」シ「ク」ル。之「後」ア「葛」日「總」領「事」ニ「聞」ク「ト」
 將軍カ先方「豫」テ「一」室「ヲ」見「テ」其「一」区「ヲ」「先」方「カ」「二」ヨ「ロ」イ「ト」
 返事「ス」ル「ト」云「フ」ヲ「我」方「ニ」元「燕」度「カ」ナ「ク」ク「ト」「シ」テ「ハ」イ「ト」思「フ」

在海口日本總領事館

聯總將政ハ「マ」ウ「遍」明朝「ノ」日「）」来「テ」將軍「一」再「考」シ「後」果
 フ「聞」ク「カ」ラ「ト」云「フ」元「氣」テ「立」テ「去」リ「翌」朝「ソ」ノ「言」ハ「通」来「タ」
 カ「ウ」テ「カ」西「系」ヲ「將」ハ「ソ」レ「ヨ」リ「先」一「人」ヲ「出」發「シ」テ「ヒ」他「一」ヲ「フ」ン「ン」同
 係「者」モ「ソ」レ「シ」テ「海」防「ニ」移「リ」マ「シ」タ。小「生」ハ「鈴」木「總」領「事」ヲ「仰」フ
 「旁」自「動」車「ノ」電「機」機「ヲ」積「ム」テ「海」防「ニ」来「ル」ト「中」央「部」ヲ「ド」ル「ト」
 フ「問」題「ト」セ「又」電「報」カ「来」タ「ル」コ「レ」カ「ラ」小「池」大「佐」（陸）中「堂」大「佐」海
 ト「葛」日「總」領「事」一「人」カ「河」内「ハ」行「ク」テ「突」發「ス」ル「ノ」外「ト」云「フ」ヲ「聞」キ
 マ「シ」タ。鈴「木」總「領」事「及」カ「生」ハ「ソ」レ「ヨ」リ「先」ニ「河」内「ニ」處「ワ」テ「イ」マ「シ」タ「ガ」キ
 後「十」町「哨」官「及」印「ニ」葛「日」池「兩」氏「カ」ヤ「テ」来「テ」「ド」ル「ノ」フ「シ」テ「讓」歩
 シ「タ」ニ「對」シ「總」督「ハ」應「諾」シ「タ」カ「司」令「官」ハ「反」對「テ」且「最」後「ノ」
 努「力」モ「水」泡「ニ」帰「リ」テ「旨」語「ヲ」池「大」佐「リ」尚「カ」佛「印」例「ニ」テ「ハ」軍「隊」
 フ「北」部「ニ」集「結」シ「テ」盛「ニ」對「抗」準「備」ヲ「進」ス「テ」居「ル」カラ「次」日
 即「チ」二「日」由「村」部「隊」ヲ「海」上「ヲ」上「陸」セ「メ」南「方」ト「シ」テ「進」ム

在海口日本總領事館

應新し一與河内ヲ攻撃する午夜外カヲ煙クトモ二十一日西
方面ニ避難アレシクトモウエト進行ソノ果ト言ニ更ニ附加テ執
心ニ退去ヲ説カレ又傍カラ善田總領事ニ口ヲ津テ鈴本總領
事ノ説得努メラシマシタ。二十一日午時軍艦往田打ソノ電報
ノ中ニ總領事録、立返キニ付テ之請訓ニテアリマス加ソレハ
留岸中ニ去タ電報テ午後海防ニ行ソノ總領事コソソレヲ南
小生ハ總領事ノ内考ヲボメ鈴本不總領事ニ殘留ニ決心ニ居
ル其該ヲ圍イテ全面的ニ戰開行ルコトトナリ而シテ河内ニ居ラレ
状況ヲハモ早留ルニ意味ナキト、思ヒ返ニ訓令ヲ待タズ
去ル決心ヲシマシタ。吾々殘留予定者四名以外ノ者ハ既ニ引揚
艦上ニアリ事務所七一應整理済ミテシタガ唯電信及電信
暗號ハ最後迄残シテイタゲ下。時カ午時前二時迄カカソテ(燈
火管制下テ外テ)燒却出来カカソテカカソテ燒ケタタ

在海口日本總領事館

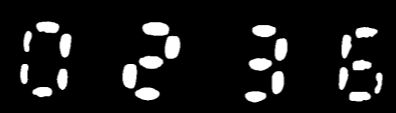
竹岡カカリマシタニ時半一河内ニ發海防ニ四時半ニ着キマシ
ソコテ西系機團ト聯絡シ八海、スラバヤハ午前十時ニ駆逐艦ハ
午後二時出港ニ決シ吾々ハ八海丸ニ乗船シマシタ。去帆直前海防
ノ海軍高司令事情ヲ圍イテ司令官ノ態度ニ對シ大ニ
憤慨シ仲介ヲ申出テ西系機團ノ宿泊セシガテ大ニ電ニ
オラテナルト聞キマシタガ其ノ竹ノ形勢ヲハ海軍高司令官ノ如キ下僚
ノ力ヲハハ女協不ク能ト思ヒマシタソレ儘去帆ニ十三日午前十
時海口ニ入港シマシタ。

其ノ後ノトモ詳細ニ書キ度イトハ思ヒマシタス加スラバヤハ丸出帆
時刻カ直ソテ来マシタソノ省略シマス。後殘心同題ノ辭
普難引揚ガノ費用カ特別ニ著列車及八海丸ノ引揚
兩船ノ賠償金ノミニシテ約二十万金少シ越ス次第ノ最
限度ニ丈ハ五家ノ負担トナルベキト信ジマスカウ此ノ上

在海口日本總領事館

二國にシテハ、韓旋 預ヒマス。避難民ノ下却滞(滞)在(在)場(場)ニ付(付)テ、
 海口軍ノ韓旋ニ依リ、ポルトガル船ニ搭(搭)乗(乗)シ、マニラカラハ配
 下(下)リ、マニラニ若シ、歸(歸)リ、費用(費用)モ出(出)セ、トナラ、支(支)出(出)シ、テ、ヤリ、度(度)イ、ト
 思(思)ハレマス。然(然)レ、斯(斯)ウ、言(言)フ、場(場)合(合)デ、スカ、フ、居(居)留(留)民(民)ニ、對(對)シ、テ、ハ、歸(歸)リ、
 旅(旅)費(費)ヤ、任(任)事(事)ヲ、休(休)ム、外(外)ニ、別(別)々(々)ニ、付(付)テ、期(期)待(待)ハ、カケラ、レ、テ、イ、カ、フ、ト
 言(言)フ、ト、ナラ、細(細)得(得)サ、セ、テ、置(置)キ、マ、シ、タ、
 此(此)ノ、手(手)紙(紙)ハ、全(全)ク、ノ、私(私)信(信)ヲ、總(總)領(領)事(事)ノ、檢(檢)閲(閲)ヲ、受(受)ケ、テ、居(居)リ、マ、セ、ン
 念(念)イ、テ、筆(筆)記(記)シ、テ、世(世)界(界)ヲ、ニ、認(認)メ、タ、モ、ノ、カ、ス、カ、フ、考(考)究(究)ノ、執(執)務(務)
 上(上)ノ、答(答)考(考)ヲ、ニス、ル、止(止)メ、テ、度(度)イ、ト、思(思)ヒ、マ、ス。

在海口日本總領事館



日本軍の
北部隊の進駐関係
歐亞局長
五
第三課長
要再四
昭和十五年十月三日

次官

東亞局長
第三課長
通商局長

仙居地交場
善ノ陸北

西原の事
部の中

昭和十五年十月三日

西原局長第三課

三宅事務官殿

於河内

芳賀事務官

前便補足、其ノ後ノ模様ヲ報告シマス。
先ヅ、蕞田總領事ヨリ、聞イタ、諸ヲ書キマスガ、多ク重複ノ嫌
ハアリマスガ、「ソレ」例カヲ見テ、協定成立経緯ヲ知ルニ相
参考トナルデシヨウ。尤モ、聞イタリテ、記憶ニ依ッテ書キ記
スガケ、デスカラ、多クノ重複ニ成ルハ、漏シカマルカモ知レマセンガ

在河内日本總領事館

其ノ事ハ、小生ニ在リトハ、言フ迄モアリマセン。

二十日朝、西原機關全部が海防ニ向ツタトハ、既ニ申シマシタガ
同日午後、中央ヨリ電報が接到シマシタ。之ハ、ロンドン進駐開始
時機及河内司令部設置ニ關シ、中央ノ腹ヲ聞イタリニ對スル
返事デ、其ノ電報ニ依リ、ト中央テ、之等ヲ殆ド問題ニシテ
オイトトが判明シタリテ、中央ノ問題ニセヌ様ナシテ、決裂
ニ導ク訣ニハ、行カナクナリソコデ、中堂、小池、蕞田ノ三人ガ
西原ノ代理トシテ、急遽河内へ戻リ、總督及司令官ト談判スル
ストトナツタ次第デス。外交交渉ヲヤル場合、最後ニテワテ
中央ノ腹ヲ聞クト言フ、拙劣ナ方法ヲトツタトハ、吾々ニハ理解
出来ナイ不手際デスガ、今度ノ交渉全体ヲ通ジテ、斯ウ言フ
コトハ、同々アツタ様ニ思ハレマス。二十日ノ晚七時頃、調印ヲ約シ
テ、其ノ後ニテ、曖昧ナ箇所ガ、アルトシテ、書物ニシテ

在河内日本總領事館

別ニ提出シタノヲ佛印側テハ新ナ要求ト見做シテモ交渉
當事者ノ不慣ナリ方ト諸學ノ不究分ナリト考慮シテ
見レバ必ズモ先方ニバカリ非ガアルト断定シ難イト思ヒマス。
何レニセヨ西原自身が自ラ出馬シテカッタハ既ニ一導河内ヲ
引揚ゲタ以上又度ルハ條裁カ悪イト言フテ其ノ時前記者
ハ西原委員長ノカインレニ協定案ヲ持テ行キマシタ。先
總督トコロニ卦ヲ會ヲ求メタ処コケテ代理ノ資格ナリ
先方ニ總督自身が會ハスニ同意房長が代ワテ會ヒマシタ。尤モ
隣室ニ總督が居ッテ夫レシコケテラノ意郷ヲ傳ヘシメタ処大体
異存ナレトノ返答ヲアツタリテ傳イテ軍司令官ヲマルン
訪問シコケテ代理ノコジアンレニ答ヲ謀長(海軍)ニ總督
ト司令官ト間ノ連絡ニあツテイタルヲ其ノ晩モ軍司令官ニ
居タ由)ヲ通ジテ申入レタ処幼司令官ノ拒否スル処トナリ

在河内日本總領事館

ココニ於テ妥協ノ望ミヲ全ク失ツタ使者一行ハ吾々殘留ノ
領事館員ニ右會見ノ模様ヲ傳ヘルト共ニ海防ニ電話スル
沈痛ノ面持テ總領事官邸ニ来マシタ。司令官ニ直接
面會ハシテカッタノビスカヤリ隣室ニ居テコジアンカ両者間ノ
意思ヲ傳ヘタリテ其ノ時ノ司令官ノ返答振リハ甚クシ
挑戰的テ何モ妥協ノ意思が見エテカッタノデソレヲ敲ケト言
フ意ニナツタソウテ官邸ニ来タ時ノ一行ノ語氣カラモ吾々早ヤ
施スベキ術カイト確信シタ次第デス。地レコジアンハ門迄来テ
何カ心残リノアル様子ヲ示シタリテ葦田總領事カラ傳進シ重大
ナ時ガカラ良ク考ヘテ呉レバガモウ手邊レダラウト話クシテ
別レテ来タト言フテデスが復ニコジアンハ本當ニサウカ
ト述懐シタト言フテデス。一行ハ其ノ足ヲ海防ニ引返シホウ
報告ソレニ依ッテ海防ニ駐留中ノ艦艇三隻ヲ全卸シテ

在河内日本總領事館

ニ其港に於てトトシテ寝ニ就クソコハ總領事館ノ残留使が直ニ
掛ケテ行ワテ打合セテ結果^{八海軍及海軍省}前日午前中ニハク早く使者
子日ハ午後二時ニ去港セシカトシテ午時ヲ決メシタ。
トコロがミツシニ例ヨリ河内ニ於ケル艦隊ヲ圍イテ海防ノ海軍
部長アラダシク仲介シ立ツトシテノテスガ彼ノ海軍中佐ト
言フモノノトクニ中將ト同期生デ總督ト親交カアル趣ヲソウ
言フ關係ニアルト聞イテ見レバ彼がヤツヲ来テ司令官ノ使が
来ル筈カカノ暫ク待ツテ告ト船ニ乗タノモ萬更オカシイ
ストデモアリマセン。午後一時頃例ノフジエニ參謀長がヤツヲ来
マシタガソレヲ受ケルカ石カ木部議評が別ニミツガ結局會同ト
シワテ^{フジエ}トシ司令官ノ使者^{石カ木}ヲ提テシマシタ。
ソノ案ハ二十日西京が一方的ニサイエテ三人ノ使者が持ツテ行ツ
安否ニ比シテ實際的ニ大差ナイが表現方法が受身トトツテヤ

在河内日本總領事館

我方ノ行動ヲ束縛スル様ナ書方ナリテ西京ニ迷ソク^{イカ}
逸^{イカ}同中興ノ命令が何デモ早ク協定ニ調印セヨト言フ矢^{イカ}
僅足ナリテ遂ニ決断シテ調印ヲ了シタハ二時半ノトデ
シタ。
少シ傍道ニ外トマスガ吾々ガソレヲ圍イタノハ二十三日海口ニ上陸シテカ
テ同盟^{イカ}トシテ大本管轄表ヲ請フヤ^{イカ}兵隊ニ一杯喰ハカレタ
様ト感^{イカ}シテ軍部ト一緒ニツテ撤退ヲ勧告シタ蓋田總領
事ヲ隨分恨ミカモノデス。吾々ガ軍發^{イカ}ヲ數時間後ニ調印カ^{イカ}
ル^{イカ}カ^{イカ}ト^{イカ}勿^{イカ}海^{イカ}軍^{イカ}ハ^{イカ}海^{イカ}軍^{イカ}ヲ^{イカ}オ^{イカ}ク^{イカ}ア^{イカ}ラ^{イカ}ウ^{イカ}シ^{イカ}今^{イカ}ア^{イカ}モ^{イカ}此^{イカ}ノ^{イカ}点^{イカ}ハ^{イカ}サ^{イカ}ク^{イカ}ト^{イカ}モ
小生自身ハ何カ割リ切レナイと氣カシマス。本省^{イカ}ヲ^{イカ}モ^{イカ}現^{イカ}地^{イカ}ノ^{イカ}個^{イカ}ノ^{イカ}事^{イカ}情^{イカ}
ヲ^{イカ}知^{イカ}ラ^{イカ}ス^{イカ}ニ^{イカ}吾^{イカ}々^{イカ}ノ^{イカ}行^{イカ}動^{イカ}ニ^{イカ}對^{イカ}シ^{イカ}テ^{イカ}不^{イカ}滿^{イカ}ヲ^{イカ}抱^{イカ}キ^{イカ}シ^{イカ}タ^{イカ}向^{イカ}テ^{イカ}ア^{イカ}ラ^{イカ}シ^{イカ}ハ
ナイカト想像カレマス。コトヲ事^{イカ}ニ^{イカ}ア^{イカ}リ^{イカ}ハ^{イカ}シ^{イカ}マイ^{イカ}カ^{イカ}ト^{イカ}慮^{イカ}ツ^{イカ}テ^{イカ}又^{イカ}西^{イカ}京^{イカ}
見^{イカ}勢^{イカ}ヲ^{イカ}奉^{イカ}テ^{イカ}申^{イカ}上^{イカ}テ^{イカ}イ^{イカ}ハ^{イカ}爾^{イカ}後^{イカ}カ^{イカ}ラ^{イカ}言^{イカ}フ^{イカ}モ^{イカ}總^{イカ}領^{イカ}事^{イカ}丈^{イカ}ハ^{イカ}子^{イカ}日^{イカ}ニ^{イカ}決^{イカ}ス^{イカ}

在河内日本總領事館

世貞ヒタイト思フテ全員引揚ケノ場合ハサウ計ソテ貫テ様ニ
テテ中堂海軍大佐ニ交渉シタノカスガ余リ良イ顔ヲ見セ
ナカソシテ著田總領事モ單ニ敷時間ノ差ニ拘泥スル由西
オト言ハレタストモアソテ人々更出帆同際ニ又事ヒテ繰リ返
ノモイヤカッタノデ多クハ氣ハ懸クテ午前十時ニ出港シテ
シマツクノデシタ。

協定調印ハ二時半同相々夕方四時ハトシテ事件が發生シ
佛印倒行ハコレヲ理由ニ協定実行ノ延期ヲ申し入レテ来テ
西打部隊ノ上陸ヲ一日延期スルコトトオリマシタ。波集團
ニ於テハ西名稱國ヨリ東京ニ協定成立ヲ電報シテ東京ヨリ
波集團司令官ニ電報カ行キ更ニ前線迄命令が徹底
スル間的一全務カ行キ而モ日軍ノ敗退ハ佛印軍ノ批
戰ニ依ルモノトイリト主張シテテマスガコレハ故意ノ第謀ト見ル

在河内日本總領事館

他ナキアトハ後カフ述ベル通りニス。三三三少池大佐(波集團
密謀ニ兼任セル)が軍使トシテトシテニ赴キ中村部隊
ニ戰中中止ヲ勸告シタカ同大佐ノ諫ムトコトニ依ルハ金中
通過セル佛印軍數條ノ支離滅裂ヲ誰カ官カ兵
士カワカラス情態ヲ而シテ大概ドコカニ隠レテテマツテイクラ
テモ出テ来ナカソツカソツカ突破シテ日本軍ノ陣地ヲ見ルト懸
組トシテテ日章旗ヲ振ツタラ直ニ向フシテ日章旗ヲ答フテ
甲尉がヤツテ乗タソウテ又戰中計画的テカ否カテ調
ベテ見タラ飛行機部隊が地上部隊ト緊密ニ連絡シテ
射撃ヲ加ヘテ居リ全ク計画的テカト明瞭トナツト云フ
コトカス。尚ヨリ戰中面会ハ佛印部隊ヲ武装解除シテ
上右隊司令官佛印軍ノ批戰ニ依リ、波集團ニテ
惡カソト云フ證ニテトシテ中打部隊ノ批戰

在河内日本總領事館

ヲ表シテオラス。

フロンタンの戦いが終つたと言つた二十四日朝西村部隊ノ揚
陸ヲ行ヒ得ヤト期待シテオヤト未ク北方五境ノ警備カ
全面的ニ終想セガリテ理由トシテ先方ハ西村部隊ノ上陸ヲ
肯シカクシタ。形勢カ刻一刻際急トナラテコラトト海軍カ
子ノ日ノ運命カ心配シ如メマシタ海軍トテハ人間ハ惜シクナ
カ駆逐艦一隻ハ神死カツカ不何ヤトウサレカワカラズ情態
シ置クニカヒク二十四日未明出港セテシマヒマシタ。此ノ竹佛印
側ノ警備シハ西島孫田ノ艦隊カ残ト言フテ四遊イテフロン
カヲ兼リ込メ駆逐艦ヲ救ハント言フ計画カ急カ急ニ夜中
予定ヲ未定ノ在ル子ノ日カ出来タマシタ二十四日午前
三時半
ハインツトモツカス出港シテシマヒマシタ。コノ竹沖ヲハ三十二日
ヨリ西村部隊ガ行抵シテ居リ三十三日三十四日三日上陸準備

在河内日本總領事館

ノ爲 鉄舟ニ乗リ移リ三時間ニ渡ニユラレ取消シテ三回命令
カレタト言フテフロンカ西村部隊ヲ援護スル爲フロン沖ニ居
タ駆逐艦數隊ハ先方失ソタト思フテオヤ子ノ日ノ艦影
ヲ朝霧ノ中ニ見出テ驚呼ヲアケタト言フ談テス。コノ
駆逐艦數隊ハ西村艦隊カ内ヲ旗艦トシ 駆逐艦六隻 掃
海艇ニ隻ヨリ成ワシ居リマシタ。

フロン沖ニ居テオヤ子ノ日カソコテ行ツテオヤト佛印側ノ汽艇カ
走ツテ来テ軍司令官ノ代理者カ来ヒ旨傳ヘタノハ協定ニ関スル
モノナラバ訪問ヲ受クルモノ以外ノ件ニツイテハ断ル旨傳カヘテ
川内テ行ツテオヤトフロンカ先方謀長、總督官房長、ヲ云
連絡將校等カ中ヲテオヤト川内艦上テ我方ノ要求ヲ
コトクテオヤト先方ハ即座ニ受諾シテ午後六時最終的
取極ガ成ルニシマシタ。トコロカフロンカ艦隊ガ更ニ前進シ

在河内日本總領事館

フランソワ軍奪取ヲ始メテレマヒタシ。コノ四戦ハ二十五日午後一時
 我方ノ圧倒的勝利ヲ得リマシ。フランソワカラ河内迄ノ距離
 ハ一五六ヤロトシテ境カラコトハ一五道ヲ兩側カチテ立テ居リ
 守ルニ安ク攻ムニ不利ナ地勢ヲ波集同知セシ既ニ多ク様子
 行カ加佛印軍ノ無抵抗ノ為豫案ニ比較的ナカシノハ
 幸デスコレヨリ河内迄ハ平道ヲ要塞モテフランソワ
 ヲ攻略セシメテ佛印側ニトワシハ咽喉ヲ扼セシメテ守ル
 其上ニ兩村部隊ガ海カラ上ヲ来テ公何事ヲサレルカワカ
 ナイト佛印側ガ備ニ上ツタニ違ヒアリマセン。二十四日ノ最後
 的取極行ハ西村部隊ハ河ヲ溯航シ海防(アトソン沖
 フロントステーション)ヨリ約二時間幸四ノ河ノ支流ヲ溯
 ニ上陸ノコトトワシテマシガフランソワノ事件ノ為波集同
 知ハ二十日未明初期敵前上陸ヲ敢行スルコトトイハレタリ。

在河内日本總領事館

海軍側ハ予テ中央部ヨリ絶對ニ發砲シテリトテ
 命令ヲ受テ取ツテマシ波集同知ノ右決定ヲ知ツテ
 艦隊司令官波集同知ヲ西村部隊ニ對シ極力翻意
 方説得シテ加激海ノ末物別レトナシ適前上陸決行直前
 ニ齊ニ瀾州島ヲ目指シテ去リテレマヒタシ。尤モ既ニ
 其ノ時迄ニ掃海作業ハ完了シ水際標識ヲ殘シテ上陸ニ
 危険ノナシ様ニシテハ置イタサウカスガ海陸加露南南知
 前ニシテ袂ヲ別レテ言フテハ波集同知ノ末事アリ
 西村少將ハ甲板ニ居テカクシテ是ヲ知リ其ノ時子日艦上
 ニ居タモハソノ光景ヲ見地トシタト云フノモ無理カラヌトテ
 勿論コレハ出先ノ海陸(ト云フテ波集同知)同知ノ不知軋轉
 ノミナク其ノ時迄佛印問題ニ對シ陸海軍ノ立場ノ全ク
 田若ツテトカフ遊ニ其ノウツターテスガ佛印軍ノ抵抗カキカク

在河内日本總領事館

和種

カノ良カワノ様ナモノノ海軍ノ授護射撃ヲ而モ前
 敵カラ射撃ヲ浴ビタトシテ白軍ノ武威ヲ傷ミ様ナ
 結果ニ終ツカモ知レテトテ著田總領事ノ電報中ハ朝
 一事件トアルノハ之ヲ指シテアルナリ。同總領事ハ軍例ノ思慮
 感心ヲ憚リテ漢地ノ文句ヲ使フタ馬本省ヲハツラテ敵
 上陸ノ意ニ解シタカモ知レマセニカ實ハ斯ウテ内部事情ガ
 敵ノテス。尚ノ一ハ地ニハ時々目撃シテ者ニテ一者ニ對シテ
 敵口合ニテカ布カレテ居リ從ツテ總領事ヨリノ報告ニ書キ
 アリマセシ著田總領事トスレバハフツツシヨシニ於テ外務代表者ノ
 著田總領事ヨリイカレバキハ助ノモノアリテハ唯貴國
 一合ニトシテ甲ススカスカラ著田總領事ノ立場ニテアリ假令
 省内ノ人ニモシバウク此ノ一ハ誠ニ又様ニシテイテキタイ。
 當付子ノ日艦上ニ居タマフコトハ件ノ新聞記者(同明也)著田

在河内日本總領事館

380

東朝中野、東日、光田、廣雲谷口ガ合作ヲコソ間ノ事情ヲ
 海軍經由打ツタ処海軍省ノ到官ガ右電報件海軍例ニ
 都合ニキ部外ノミテ被華ニテ同盟トシテ發表レシレガアタマニ
 海軍例ノ提灯ヲ持ツタ恰好ナリ馬ニ西村君波集團
 外ハ怒ツテ菱刈ヲ殺ストカ何トカ駱ヤ出シ菱刈君ノ身入込
 クナメテ明日海軍機ヲ歸朝スリテ彼ニコソ手紙ヲ
 托送シ様ト思ヒ只今書イテキル次第ナリ。尤モコレハ軍
 二一新聞記者ニ對シテ憤慨ハナリ西京機庫ニ對シテ海軍團
 ノ反感ノ現レテアツテコソ二者ノ反目ハ今後益々尖銳化
 スルモノト思ハレマス。
 五五ハ三十三ヨリ海軍機ニ移ルハ南支派海軍司令部ヨリ
 情報ヲ聞イテ居ミタガ二十者ノ朝寢テキル内ニタテテ起サレテ
 フラハ丸出帆トシテテ慌テテ乘込ニテ同航ハ航行ニ好

在河内日本總領事館

381

同半の海台に引返レ其の角に陸に突リ其の竹に始メテ
 直ニ帰任セテノ電報ヲ見テテノガ如ク三音千石六竹内
 以テラハヤカニ集リ込マントテキヤト子ノ日が入港シテ東ニシテ
 同艦ハ駆逐艦隊が五ヶ所ト傍イテ海口ニ向テ航行シテ
 東テソノ一トニ西ニハ知ラナカッタソノウチノ竹以テ東ニ極團
 女海軍ハ完全ニ波集団ト連絡加絶エテシマツテチテ所カ
 海口に停泊中ノ第一艦ニ遣外艦隊ノ旗艦自海上テ會ワツ
 竹ニシテシヨシ連中ハ吾々カラフニシテハ其ノ竹會
 ツタ西ニハ其ノ毒ナ位 惟悴ニテ椅子カラ半外腰ヲ上リテ
 ウトウ駄目ヲシタヨト言ワツテ又グッタリト座ワシマヒマシタ
 海口にシヨシ連中ハ波集団ノ連中ト余リニモ考ヘ方ガ
 違フカラ上陸サセタテキツト喧嘩ニシテニ違ヒテイト言フノ
 上陸ヲ禁止サレテ居テ西京一人陸ニ来テチテ其ノ竹會

在河内日本總領事館

才三部長鈴木少將ニ會ヒ行々竹ハ皆同サリ將一身上
 ヲ帰ル道ニ氣遣フキヤト言フトリス。
 吾々が海防ニ上陸シタハ二十九日ノ晚一足先ニ入港シ碇泊場
 司令官北澤少將ニ挨拶シタ後波集団ノ松永参谋ト同行シトシ
 ノ西村部隊司令官ニ赴キマシタ。トシノハ海防ヨリ自動車ヲ
 シテ地位東南ノ所ニ在ル海水浴場デソコニ名タ一軒アルガ
 占領ニテ司令官トシテキマシタ。占領シタ後デマネヤトク呼ビ
 ケテ一室一日ニピエト止ノ契約ヲシマシタカラ賃借ノ形式ヲトシテ
 マカ渡金ヲ貰ワツテドク敷テ床ヲ歩カレ銃砲ヲタテカケテ壁ニ穴
 ヲアケラシテハタツタスエデハアリマセン。ホテ此ノスガ前ガ海デ
 風ガ吹キ込テ来ルニ階デ葡萄酒ヲ飲クヤト司令官ノ西村
 少將(前東部防衛司令官)参谋長(マ参谋長)ノ長大佐
 (海軍部)ノ部隊長等ナカク氣烟焰ヲアゲテオマシタ。司令官

在河内日本總領事館

ハ東京デ編成サレタミタガコノ部隊ハ南支ノ^{鎮野}米^中カラ来タ
一度モ戦軍ヲシテ中ノイ近衛ノ現役ノ初年兵^{今ノ}如^{軍規}
モ嚴シイカイクラ動物程度ノ安南人^ノ女^トア^ハ何^ヲシ^テカ^スカ
ワカラナイトモ^フノ^レ今^カラ^ラ慰^安所^ノ設^備ニ^ウイ^テ当^局ハ^頭
ヲ^ナマ^シテ^中マ^ス。

西原ハ海ロデ委員長罷免ノ電報ヲ受ケ取ツタ時ハ氣ノ毒^ヲ
位^ノ悄^氣テ^トお^クト^ト新^屋ハ^入ッ^テ行^クツ^タ言^フコ^トシ^タカ
海ロデ上陸シテ參謀本部第三部長ノ鈴木少將ト會ヒ中央
ノ意向^ヲ聞^クテ大^イニ氣^嫌ヲ^ナシ^タ河内^ハ歸^リツ^テキ^マシ^タ。
西原^ハ機^關ヲ^承ヒ^タ子^ノ日^ハ海^防ニ^入港^シタ^ハ三^十日^午後^二時^同少
將^一行^ハ直^ニ河^内ニ^赴キ^總領^事館^ニ會^ヒテ^同日^中河^内
ニ^歸還^シマ^シタ[。]陸^海ノ^目ハ^三十^日朝^ノ事^件ヲ^明カ^シ
アリ^マス^カ陸^軍内^部ヲ^シテ^波集^団ハ^西原^機關^ヲ目^ノ下^ニ留^置ス

在河内日本總領事館

シ西原^ハ身^ヲ担^リ祖^ハレ^テキ^ニ於^テ是^レ七月^同少^將カ^ラシ^ンシ^テ監^視所^ヲ
機^關ニ^赴キ^後ニ^玉境^ヲ越^エテ^在多^時鎮^南同^ニオ^キ中^村
部隊^ノ司令^部ヲ^訪問^シタ^際ニ^同部隊^ノ將^校連^カ刀^ノワ^カ
ニ^テフ^掛ケ^ルト^言フ^劇的^場面^ガア^リ其^ノ後^ニ協^定交^渉ガ^進ム
ニ^ワレ^テ同^少將^ヲ國^賊扱^ヒニ^スル^氣風^ガ益^々長^シテ^来タ^模樣^ヲ
デ^シワ^レシ^ヨン^一行^ガ海^ロニ^着キ^タ時^ニ南^支軍^司令^部ト^考へ
方^ガ余^リシ^ン違^フテ^誤ラ^シタ^ラ危^険ヲ^ト言^フノ^レ船^ニ鐘^ヲ鳴^ラシ^テ
テ^オキ^タ位^ヲシ^タ。コレ^ハ穿^テ過^ヤタ^散兵^カニ^知ラ^セニ^カ協^定ガ
出^来ル^ト思^ハレ^タ又^協定^ガ出^来ル^ト思^ハレ^タ満足^スベ^キ事^ト思^ハレ^タ
取^極出^来タ^時ニ^モソ^レガ^前線^進傳^ハラ^ズカ^ツタ^ト言^フ風^ニシ^テ侵^入
ハ^一口^突キ^行ク^ヨウ^トシ^タコ^ウニ^モト^レナイ^トハ^ナイ[。]三^十日^吾々^ガ海^ロ
ニ^上陸^スル^モ否^ヤ波^集団^ノ司令^部ニ^行ク^比部^隊線^ノ模^樣ヲ
聞^クイ^タハ^シト^シタ^レノ^戦軍^シツ^キ一^度喘^息合^シタ^{以上}後^退ス

在河内日本總領事館

コトハ支那例カラ日本軍ガ佛印軍ニ撃退セリト思ヒ結果
 二カカラ敵ク丈敷ケト言フ命令ヲ發シタト佐藤參謀副長ハ
 前陸軍省情報部長ハ諒ヲイホシ又^{後三}十六日朝一海防市街
 燬^燬燬^燬ニツイテ諒^諒ヲイホシトシテスナカトト飛行機部隊カラ
 言フヲ来メト諒^諒ツタガソレニ相當怪^怪コ^コノ^ノ者^者ガ佛印ニ度^度ツテ軍
 イクトコロニ依^依レハニテ六日朝敵前上陸ト同時ニ燬^燬燬^燬ヲ^ヲ連^連ニテ
 示威運動ヲマ^マリ第一回ハ停車場附近ニ四箇燬^燬燬^燬ヲ投下シ
 (内一發ハ不發)第二回ハ市外ニ三箇燬^燬燬^燬ニ間違ヒテアツタトハ
 ハウモ思^思ヘズ第一回ノ時ニ安南人ノ死者十七名及傷者十五名
 ヲ出^出シタ。此ノ時ノ空襲警報ヲ海防河内居住者ハ極度ノ
 恐怖ニイソ^{イソ}レ^レ此ノ時ノ^時 *Juste* デ^デ北^北ガ^ガ者^者ガ澤山^{澤山}ツレソツテ留守番
 ヲセテ度々銃ヲ館事務所及官邸ノ安南人ノ書記ヤ^ヤハ^ハい^いハ
 殆ド全部日金ニ逃^逃ケ^ケテ^テニ^ニマ^マリ^リ。商人モ大^大部^部恐慌ヲ来

在河内日本總領事館

此ノ商品ヲ大分日金ニ運^運ビ今^今ヲモ買物ニ行^行ク^クト品物ガ余^余リ^リイ
 店ガ相^相多^多アリマス。コレヲ^ヲ綜合^{綜合}シ^シ見^見ト^ト波^波佐^佐國^國ノ真^真意^意ハ協^協定^定
 ヲ作^作ル^ルガ目的^{目的}ヲ^ヲハナ^ナク何^何レモ^{レモ}イ^イカ^カラ^ラ口^口實^實ヲ見^見ツ^ツテ^テ戰^戰争^争ヲ^ヲ終^終止^止
 掛^掛ケ^ケヨウ^{ヨウ}ト^トス^スベ^ベク^ク其^其ノ考^考ヲ^ヲ計^計画^画ヲ^ヲ進^進メ^メ協^協定^定ガ^ガ前^前者^者外^外時^時ニ
 動^動キ^キ出^出シ^シタ^タ軍隊^{軍隊}ヲ^ヲ止^止ス^スル^ルト^ト出^出来^来ナ^ナカ^カン^ント^ト言^言フ^フ恰^恰好^好テ^テ事^事ヲ^ヲ起^起ヤ
 ウ^ウ企^企ム^ムタ^タモ^モト^ト吾^吾々^々ハ^ハ考^考ヘ^ヘテ^テ居^居マス。中央^{中央}ガ^ガ同^同意^意見^見ヲ^ヲ見^見エ^エテ
 除^除謀^謀派^派ニ^ニ對^對シ^シテ^テ新^新平^平ヲ^ヲ處^處置^置ヲ^ヲ豫^豫メ^メ安^安藤^藤軍^軍司^司令^令官^官中^中村
 旅^旅團^團長^長富^富永^永一^一部^部長^長ヲ^ヲ首^首ニ^ニシ^シマ^マシ^シタ^タガ^ガ參^參謀^謀部^部一^一荒^荒尾
 中^中佐^佐波^波佐^佐國^國一^一佐^佐藤^藤大^大佐^佐ニ^ニ次^次イ^イテ^テ同^同ジ^ジ運^運命^命ニ^ニシ^シル^ルト^ト思^思ヒ
 マス。鈴木^{鈴木}少^少將^將ハ^ハ怒^怒ツ^ツテ^テ西^西原^原河^河内^内ハ^ハ連^連レ^レ度^度ヤ^ヤ他^他ニ^ニ現^現地^地軍
 ヲ^ヲ壓^壓ヘ^ヘル^ル使^使命^命ヲ^ヲ以^以テ^テ撤^撤遣^遣サ^サレ^レタ^タメ^メニ^ニ同^同ジ^ジ將^將ハ^ハ十^十月^月日^日午^午後^後ラ^ラン
 ニ^ニ二^二日^日ド^ドー^ーソ^ソン^ンニ^ニ視^視察^察一^一爲^爲赴^赴キ^キマ^マリ^リ。ド^ドー^ーソ^ソン^ン一^一方^方ハ^ハ割^割合^合ニ
 オ^オト^トシ^シテ^テラ^ラワ^ワニ^ニ前^前日^日西^西原^原機^機團^團一^一小^小池^池右^右佐^佐ガ^ガ行^行ツ^ツタ^タ時^時ハ^ハ若^若ク^クヤ^ヤ

在河内日本總領事館

河内日誌
九月二十五日

逆ニ喝サレテ歸ソシ来タ(フ)ソシ砲台ヤ其ノ附近ヲハ概ヘタチ
射砲其ノ他ノ兵器ヲ返シ佛人ヤ安南人ノ捕虜ヲ解放シマシタカ
ランソシノ方ハ未ダシク殺氣立ソシテ日本軍ノ俘虜トナラセ
佛印軍將士ノ爲ノ食糧ヲ引車テ運ンテ行タト此ノ線カ
前ニ出テハイケヌト言ヒタカラ受ケ取リテ行ケヌト言フテ取リテ来
ナカワテ其ノ列車ハ已ラ得テ歸ソテ来タト言フ語モアリ一戰争
シテ氣モ立ソシオマスカラ又事件ヲ起サネハヨクカト懸念サレテオス
總領事ヨリノ電報中在留婦女子ノ歸還ニ就イテハ追ソテ報
告見込待タレタシト書イタハ中村部隊が全奇通過ヲ完了シ
又西村部隊ノ布部ガ河内ニ着リ後ソテ一應落着イタ上
リナケレバ居留民保護ノ責任ヲ負ヒル者ト女子供ヲ歸スルハ
時機尚早ト考ヘタカラテ本省ニ色々問ヒ合ヒガアルト思ヒマス
其ノ合ヒガ應酬シテイタタキタイト思ヒマス。

在河内日本總領事館

佛人ノ苦ミニ對スル感情ハ海防ヲハ諦メ印ソテカ豫期ニシテ
敵意ヲ表ハサカワタカ河内ヲハ可ク反感ガ強ク憂鬱ニシタガ
立チ去ル直前迄暢氣ナシテテテ佛人達モ今テハ目ヲ大ラセ
テ老々リ泣視シマスハ商社關係ノ抑人モ斯ニテ空氣ヲ以テ商
賣モ出来ナイトコホシテオマス。

九月二十四日 香港行 十五名 行先不明 十二名
九月二十五日 西貢行 十三名

在河内日本總領事館

空

九月二十日 行先不明三名 西南行 十五名
 九月二十七日 〃 四十一名 〃 十五名
 九月二十八日 香港行四丁名 行先不明三名 西南行十五名
 九月三十日 香港行十六名 西南行十五名
 尚在河内支那總領事館ハ九月二十日西貢ニ移駐シタ
 こと加支那人ノ利益ハ河内ニ居ル唯一ノオシヨ領事官アリテ
 二番化シタカ佛印例(憲)官ニ對シテハ何等權限ヲ不
 得ナリ佛印例ハ非中ニ居ル者トシテ又支那總領
 事ハ佛印在留支那人ニ對シテ下ノ情報ハ知ルニ當
 テテ勅告シタト云フ噂アリ。河内及海防ノ中國銀行支店
 前ニ預金者ニ對シ昆明ニ手紙ヲ書キ度トノ貼札ガ出テ
 人目ヲ惹キ居リマス。
 河内街ノ燈火管制ハ軍事交渉ガ最終段階ニ入リ八月下旬

在河内日本總領事館

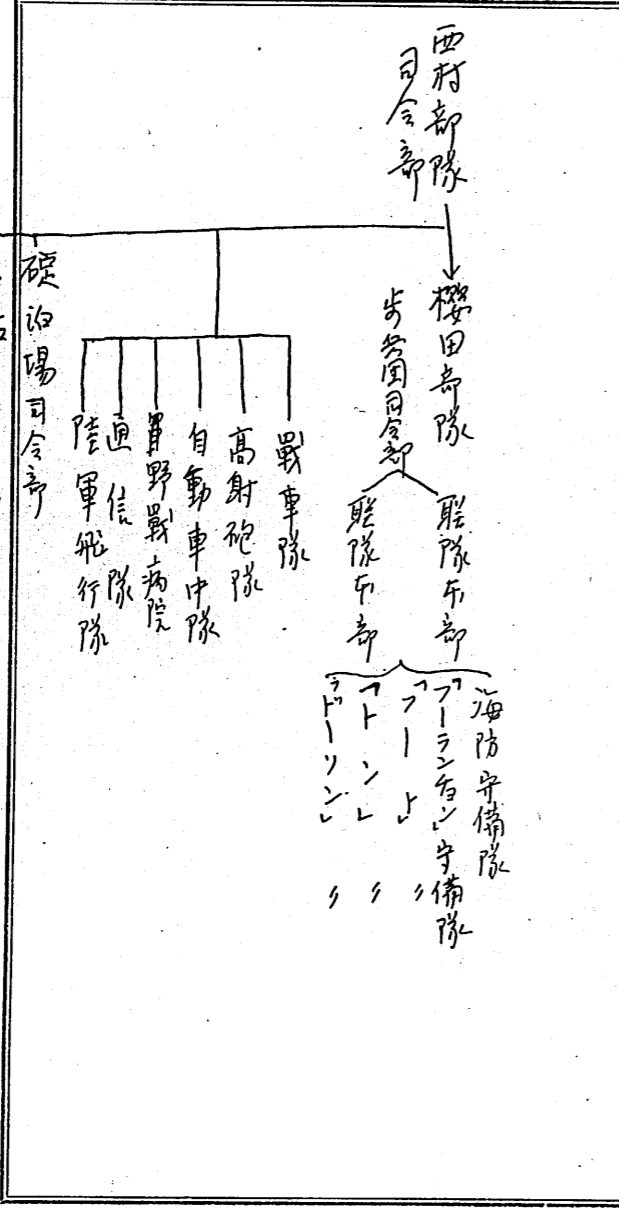
ヨリソフト儘クテ居テ吾々ノ立退キノ前頃ハ隨分暗クテ或
 夕食後腹カシニおんカラサレ歩キテ道路ニ寢テアル
 四五人踏ツカニシ位眞暗デシカ領事館ヤ西原機關ノ
 日ノ翌日即チ十月一日ノ晚ヨリ平生通り燈火ヲ點ケル
 昨日ハ燈火管制用ノ下ヲ半分復ツテ街燈ヲ電線工夫
 リ外ニ運ニテ行クノ見マシ。海防ハ街中至ル日本
 兵隊ガ電線ヲ架設シテテテテテテテテテテテテテテ
 止ラレ氣ニタカワテ見物ニテ居マスハ街中非常ニ平
 印ハモトモテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 大規模ノ酒保ヲ設ケ兵士ノ必要ヨリ購テ計畫酒保以外
 ケル軍需ノ使用ハ禁止サレテ居リマスガソレモ拘
 所テ盛ニ酒保ヲ設ケテテテテテテテテテテテテテテ
 香上銀行ハ一〇アストニ對シ軍需ニ對テテテテテテテ

在河内日本總領事館

場) ナラ豫ハト言フイキマカ一ポアト山一糸一積リヲ受取ツ年ニ安南
 人カ大部カト思ヒカカラ銀着ガ銀行ノ行ツ軍票ヲ圖ト交換スル
 トキハゴクカ起ルトハ必死一死ス。

軍ノ直接ノ任甲一為ニ百二十萬ポアト山ヲ用意シマシカ其ノ内
 ハ台帳ヲ十二三萬借金、廣東軍ガ香港幣ヲ持ツテ来テポアト山
 ニ交換ハタカ三十五萬、外債ヲ三十五萬、其ノ外ニ井カ西貢、玉
 蜀泰成金支拂一為香上銀行カ借リソレヲ融通シタカ五
 十萬合計約百二十萬アリマシカ台帳カ借リタカ返却レシ
 ソウカ從ツテ現在ノ手積ヒアト山ハ百五六万程カ概算サレマス。
 知シ移動セヌ状態カ一箇師團ヲ一月養フ為ニ七八十萬カ西貢
 ト言フ語ヲ移動カ能ハスル現情状カ一月ト一寸シカカ
 イト言フアト山カ既ニ佛伊例ニ對シテクレイツト設定ヲ要求シ
 マスカ何時迄モクレイツトヲ許スルカドウカ疑問カ金一問
 在河内日本總領事館

カラ争ヒノ種ヲ播イテ内以際悪ナ状態ニ迄崩カヌトモ限リマレン
 カラ軍ノ財政ニ固シテハ充分注意ヲ要シマス。今度末ノ経済カ
 ツンカ上此ノ点ニ固シテハ慎重ニ研究スル必要カアリマス。
 西村部隊ノ構成ヲ簡單ニ圖表ニシテ見ルト左ノ通りナシ



在河内日本總領事館

在河内日本總領事館

順序ヲ進ハス思ヒ付ク儘ニ進マシムルカヨリ吾々ノ友省モテハイラフニ
 点ハ中央ヲモ現地ヲモ今度ノ交渉ニ全ク發言權ヲ有シカクソト
 デ外務省ヲハ松岡アツリシ了解ヲ作ラト言フカモ知ラセメンガ在
 シアレバ原則ガ確定シト言フテハ後ニイカユザハ起ラズルヲ望ム
 吾々ガ現地カヲ見テオルトアニチモハ作文カトシカ思ヘナイ。技術
 的細目ニ止ラズ兩當事者ノ^可戰争状態ニ迄導ク事重大ト交渉
 ヲ軍事交渉ト言フトテ全部軍部ニ讓ラトテハ^勝甲斐ノ
 ナイコトデス。コレモ案カノ差ト言ヘバソレ迄デスガ一切口ヲ入ルニトテ
 フチカレ事後ノ経過ノ大要ヲ聞ク又ハ外務省ノ立場ハ何モアツ
 モイデハアリヤセン。今回ノ事件中外務例ガ改訂シテハ專ラ居留
 民保護ノ關係又ハ此ノ点ハ大ニ友省ニ必要ガ点ト思ヒマス。
 而モ交渉ノ立役者ヲル西島富永ノ両少將中富永ノ傳説ハ
 同點トテラス西島トシテ人ハ^可縮會議者ニ出席シテ相対自信

在河内日本總領事館

持ツテ度マスガ或ハ可ナルタシ司令官ガ何時カ午餐ニ来テ呉レト
 言フタノヲ今日ノ午餐ニ来テ呉レト言ヒタト感^可違ヒラレテノヲ行
 ヲテ其ノ日司令官ハ總督ノトコロヲ宴會ガアツタリテ困ソテ副官ニ
 代リテ^可馳走オセタリトテアリマシタガコレハ^可例ニ過ヤイナリ
 コケラデハ片言カテ大體意思ヲ通ジテモ向クノ言フテト聞キ漏
 シ後テ書物ニミル時テソテオ互ニソウ言フテ^可後テハ^可カツト言フテ
 カ頻々トアリテ十日ノ^可暇ノ如クハソレノ最モ甚カシク例ガアツテ
 仲知シク何何ニ傳^可仰例ガ^可遷延^可第^可講^可ニ^可為^可ニ^可大^可涉^可ガ^可既^可ヒイ
 ナトバカリ言ハナイ^可節^可ガ^可ア^可ル^可ト^可リ^可誰^可ノ^可口^可カ^可ラ^可モ^可来^可ガ^可中^可央^可ニ^可傳^可ワ^可テ
 ナイイラレイ^可會^可大^可ト^可点^可外^可ト^可思^可ヒ^可マス。ソレニツケテ^可外^可務^可省^可ガ^可一^可致
 加^可ワ^可テ^可中^可カ^可ツ^可タ^可ト^可ハ^可會^可流^可ク^可遺^可憾^可ナ^可ト^可レ^可レ^可。西^可京^可ハ^可外^可務
 例^可ノ^可交^可渉^可ノ^可事^可加^可オ^可セ^可テ^可カ^可ク^可ト^可テ^可ラ^可ス^可軍^可機^可關^可ニ^可關^可ス^可ト^可カ^可ラ^可ト
 せ^可フ^可テ^可吾^可々^可モ^可執^可シ^可ツ^可ク^可言^可フ^可ト^可ハ^可尾^可松^可ハ^可マ^可タ^可ガ^可海^可軍^可例^可ハ

在河内日本總領事館

委員長中堂大佐之交渉ニ連行せず隨分不満ヲ抱イテオク
様ナリ。

西京機關ハ海口ヨリ處々人員ノ整理ヲシテ無駄ヲ連中ハ
内地ノ送還シ陸軍ハ千名海軍ハ千名ト云フ小世帯ニ縮小
レコト形ヲ半永久的ニ一種武官室トシテ現存シ軍ト佛印
側ト一箇ニ立テ交渉ニ當ルニ望ミテ一方西村部隊ノ司令官
毛直々河内ニ設置サレ約^{六百}人ノ軍人が(司令官等三百名)護衛
兵一通信隊^(無二名)等ヲ合セテ河内ニ集ルトシテテ度リマスカラ
總領事
領員ノ九名ノ機關ニ慎重ヲ考慮シテ外務省ノ意味ヲ附ケ
ル様切ニ希望スル次第ナリ。

小畑一傳命令ニ因リテ軍事交渉が波瀾愈々増シ極メテ不穩ニ
ナリ状態ノ下ニ特種ノ準備ヲ採リテ度マシムガ今度大規模ニ經
濟使節團が派遣サレルトイフ事趣ヲ歸朝命令ヲ度テ取リマシム

在河内日本總領事館

經濟交渉

か今度ノ使節團ハ一度^{喧嘩}後ヲスラズトヤリコトナリト
思ヒタル。然レ引揚ケ前ノトカカ鉤山局長ノ談ヲハツテ政府
カラ經濟交渉ハ東京ヲヤルレノ訓令が未テ度ツトナリト
カスレ今迄ノ總督ノ態が如何カ変テイトスレバ總督自ハ國統率
変更ヲ最モ限度トシテ權限ヲ有スニ過ラズレカラ交渉
場ヲヨチト巧妙ニ運ハイト使節團が来テハ結局社交ト見物ニ
オテテ湯サレカモ知レマセンカラ^{警戒}ノ要ガアリマス。
小生ハ十日頃ノ軍用機ニテ歸朝シマスカラ數日中ニ東京ヲ譯
シテ報告スルトガ由キト思ワテチマス。

在河内日本總領事館